

「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験会 ～カードゲームでSDGsを体験し、地方創生を考える～

産学官連携+SDGs推進+ダイバシティ推進プロジェクト主催で、教職員を対象に「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験会が行われました。地方創生に取り組む日本の自治体や、ソーシャルセクターの具体的なアクションを題材にし、多様なプロジェクトの実行を通じて「行政と市民による協働」を体感できるカードゲームです。プロジェクトメンバーの本学教職員2名が公認ファシリテーターであることから、まずは実際にカードゲームを体感すること、そして授業やゼミ、キャリア支援等の場面におけるゲームの活用についても考える機会となりました。

「一口に“まちづくり”といっても、多様なアプローチ（プロジェクト）がありうることに、さらにそれらが良くも悪くも相互作用することを体感できる。そして、協力して“まちづくり”に取り組む楽しさを体感できる。ゼミや講義の一環であれば、その後の授業展開や総括の場面で様々な活用できそう」「このカードゲームではチームワーク、リーダーシップを鍛えることができると感じた。リーダーシップが取れるような人材の育成ということが、市民協働のSDGsということでは重要な要素になるのではないかなど活発な意見が交わされました。



●企画概要

日時：2021年2月22日（水）13:30～16:30
開催方法：1号館地下1階1cafe
参加者：教職員11名



SDGs & Seig

Newsletter

2020-2021



SDGsとは？

2015年9月、全国連加盟国（193国）は、より良き将来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようという壮大なチャレンジです。

（出典：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン WEBサイト <http://www.ungcjin.org/>）

貧困、飢餓の問題だけでなく教育のことや性的マイノリティー、ワークライフバランス、消滅可能性都市の問題など日本でも身近な問題が取り上げられています。このようにSDGsは、直接、間接に関わらず世界中の人々の生活に関係している課題です。

2030アジェンダが掲げる17のゴール



国連広報センターより引用

聖学院大学のSDGsの取り組み

SDGsのD (Development) は、途上国のみならず、先進国においても、より良い社会に向けた「発展」が必要なことを意味しています。SDGsの意義は、国や文化を越えた「共通言語」として、多様な人々やアイデアを結びつける点にあります。そして、「知の共同体」たる大学には、地域と世界をつなげる拠点として、地域の市民や企業、団体、行政などが連携・協働するためのプラットフォームとなり、グローバルな役割を果たすことが求められています。2020年度は、SDGsの柱の一つである「環境」をテーマとして、とりわけGoal 12「つくる責任つかう責任」に焦点を合わせ、学生主体の活動を広げることを目指す取り組みを行いました。



グローバル・コンパクトへの署名・加入

学校法人聖学院は2018年4月、グローバル・コンパクトに署名・加入し、SDGsを目指した活動を行っています。2019年7月には第一回目のCOE（コミュニケーション・オン・エンゲージメント）を提出しました。

SDGs & Seig Newsletter 2020-2021

発行元／ 聖学院大学SDGsプロジェクトチーム
発行日／ 2021年3月22日

このプロジェクトに参加を希望する学生は
ボランティア活動支援センター（1号館1階1103教室）にご相談ください。

「環境ワークショップ」

～プラスチックごみを減らして持続可能な循環型社会に～



1 新聞紙ごみ箱づくりワークショップ

聖学院大学では、学生、教職員協働のプロジェクトとしてSDGs推進に取り組んでいます。本年度はSDGsのGoal 12「つくる責任、つかう責任」にフォーカスして取り組みました。

今問題になっている、プラスチックごみの削減という環境問題にアプローチするきっかけ作りとして、新聞紙でゴミ箱を作成するワークショップを開催しました。

このワークショップはSDGs学生チーム「Petit Arche」が企画し、教職員協力のもと、対面、オンラインの2つ同時に開催しました。新聞紙で作るゴミ箱はビニール袋を必要としないため、プラスチックごみを出さずに使えます。また、いらぬ新聞紙で作成できるため、資源の削減にも繋がります。作成にテープなども用いないため、誰でも簡単に作れます。参加した学生は楽しみながら取り組んでいました。

コロナ禍の状況ではありましたが、対面の応募者は満員でした。対面の参加者は1年生が多く、オンライン授業のみだった学生にとって良いコミュニケーションの機会になりました。



企画概要

日時: 2020年11月10日(火) 12:15~12:55 (受付12:00~)
開催方法: Teamsと会場(1号館地下1階1cafe)とのハイブリッド型
参加者: 23名(内訳 学生16名、教職員7名)

新聞紙ごみ箱づくり WSの感想

日置 歩み

心理福祉学部 心理福祉学科 1年

レジ袋の有料化を受けて節約しようと自宅で新聞紙をゴミ箱として活用していた事を話したところ、ぜひ学内でも広げようという話になったことがきっかけでした。予行でうまくメンバーに説明ができず不安でしたが、当日は先生、先輩、同級生に支えられ無事に終わることができました。講師は初体験だったので貴重な体験になりました。

チーム名 "Petit Arche" に 込めた想い

中田 蒼威

人文学部 欧米文化学科 2年

"Petit Arche"とは"小さな方舟"という意味です。聖書に登場するノアの方舟とかけていて、希望や望みを積み、目の前にある問題と向き合い、見つめ直し、解決出来るチームになれるよう方舟にしました。小さくとも大きな可能性を秘め、どんな荒波に揉まれようとも決して屈する事はない。そんな想いを込めました。

2 みつろうラップづくりワークショップ

新聞紙ゴミ箱ワークショップの成功を受け、コロナ禍の現在でも自宅から環境問題にアプローチできるよう、オンラインでみつろうラップ作りワークショップを開催しました。

みつろうラップはみつろうを布に染み込ませて作るラップです。普段使っているラップは使ってすぐに捨ててしまうため、プラスチックゴミが発生してしまいます。そこで、洗って繰り返し使えるみつろうラップを作り、使うことでプラスチックゴミの削減になります。みつろうラップは使わなくなった布で作れるため、資源の再利用も同時にできます。また、布、みつろう、アイロンがあれば誰でも簡単に作れるため、取り組みやすい活動です。

このワークショップにはSDGs学生チーム「Petit Arche」、教職員と本大学以外の方にも参加していただきました。みんな笑顔で交流しながらみつろうラップ作りができました。

来年度も引き続きSDGsに関係のある活動に取り組み、SDGsを広め、達成に貢献していきたいと考えています。



企画概要

日時: 2021年3月9日(火)13:00~14:00
開催方法: Teams
参加者: 14名(内訳 学生6名、教職員4名、一般4名)

みつろうラップづくり WSの感想

大山 美来

人文学部 日本文化学科 3年

みつろうラップを作りたいと考えていたので、ワークショップを実施するというお話になった時はとても嬉しかったです。講師は初めてであり不安でしたが、予行で先生やメンバーと楽しんで作ることができたため、当日も無事に終わることができました。参加者の方も含めて皆さんに支えられながら作ることができました。ありがとうございました。

2020年度の 活動の感想

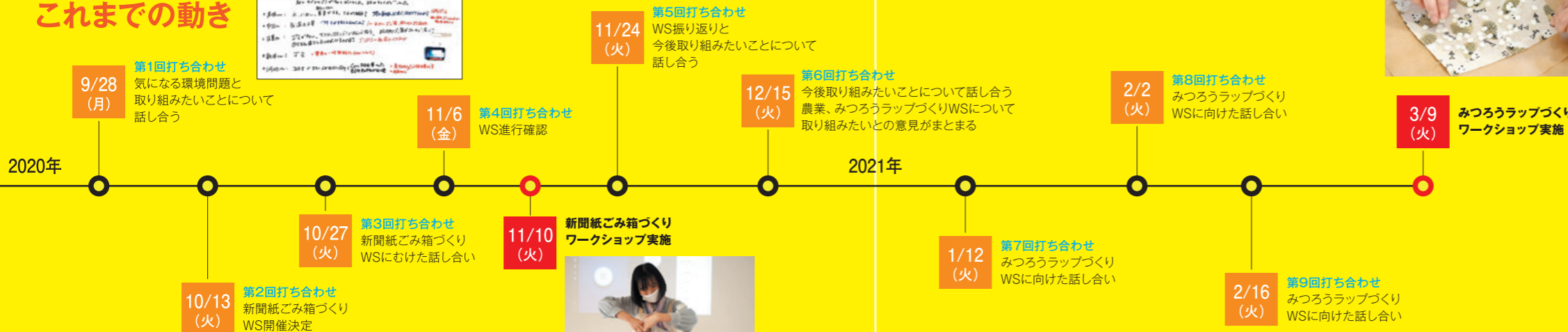
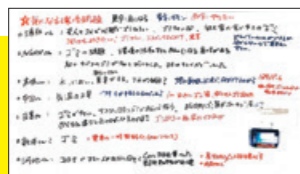
新井 乾斗

政治経済学部 政治経済学科 2年

今年度の活動は、環境に焦点を当てました。コロナ禍で顔を合わせて集まれない中、企画の打ち合わせや実際に行う企画自体もオンラインで初めて挑戦したのに関わらず、チーム内でこまめに連絡を取り合った結果、とても内容の濃い一年になりました。今年度に続き、SDGsに関心がある団体として来年度も活動をしていきたいです。

Timeline of Action

環境ワークショップ これまでの動き

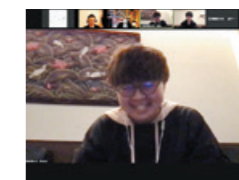


その他の活動



10月7日(水)

上尾市市民活動センター公開講座「知りたいSDGs」にて西海洋志准教授が講師を務め、学生2名が2019年度「学食プロジェクト(SDGs寄付メニュー: 学生食堂売上金の一部を国連WFPに寄付)」の取り組みについて説明した。



2月11日(木)

持続可能な発展を目指す有志の組織・団体のプラットフォームであり、学校法人聖学院として2018年4月より加盟している一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのSDGs分科会に学生3名が参加し、自分たちの取り組みを発表した。